

久能山城(国史跡)(静岡市駿河区根古屋)(久能山東照宮)

久能山東照宮にある現在の久能の山は、武田信玄が駿河の今川氏を攻略するまでは久能寺と呼ばれた駿河国内でもとりわけ歴史のある大きな観音信仰のお寺存在していた。西行法師も訪れ、正に東国を代表する山岳信仰の天台宗の寺であった。ところが城郭(山城)を築くために絶好な場所であったことから、武田信玄は永禄11年(1568)駿河の今川氏を攻め滅ばせると、ここに「久能山城」を築城した。このため久能寺は、清水区の村松に強制移転させた。これが現存する鉄舟寺である。

武田信玄は久能の山に注目し、この年、庵原(いはら)弥兵衛に案内させて久能の山に登り久能観音の寺や坊を追い出して、馬場美濃守・山県三郎兵衛の二人に縄張を命じて山城(久能山城)を築城させた。こうして久能山城は、断崖絶壁に囲まれた難攻不落の山城として完成した。城代は今福浄閑斎)を置いた。

武田勝頼没落の後に久能山城も陥落した。その後中村一氏が、家康公の代わりに駿府城主となると、要害の地として再びこの山城に守りを配置した。慶長12年(1607)家康公が大御所として駿府に来ると、久能山城は堅固な名城として本多上野介が守備に就いた。この時元々この山に住んでいた観音の宗徒たちが、再び観音霊場の再建を家康公に願い出た。ところが家康公は、村松に移転していた久能寺に寺領を与えて保護するに留まった。久能山の戦略的価値は、誰よりも家康公が承知していたからである。由緒ある久能寺(鉄舟寺)には、国宝久能寺経があり、東京国立博物館に寄託されている。

静岡市経済局商工部観光課サイトによる

